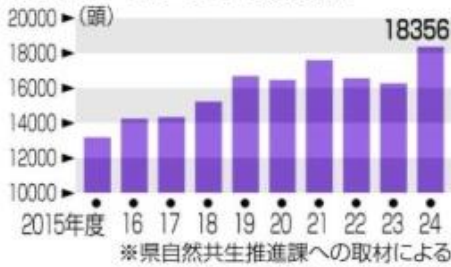


年 組 名前:

富士山 シカ捕獲を強化

県が数値目標 高山域の生態系保全

県内のニホンジカの捕獲数



山梨県は富士山の生態系を保全するため、5合目でのニホンジカの管理捕獲を強化する。県富士山科学研究所の研究では、ニホンジカがこれまで生息していなかった標高1500以上の地域に移動するようになったことが分かっていて、植生や生態系に悪影響を及ぼす可能性が指摘されている。季節によって移動するシカに絞って捕獲することで効果的な対策につなげる。

県自然共生推進課によると、富士山5合目周辺の山林にわなを設置し、シカが移動すると、標高が高い地域に生息しているカモシカは植物を一部残す食べ方だが、シカは植物を食へ尽くす。標高の高い地域は希少な動物が多く生息していて、植物や生態系への影響が懸念されている。

するとみられる春から初夏にかけて年50頭の捕獲を目指す。これまでも富士山周辺でシカの捕獲は行われていたが、県が数値目標を決めて捕獲に乗り出すのは初めて。シカの生息密度の高い、本栖エリアで集中的な捕獲も進めている。

県富士山科学研究所は2018年6～8月に富士山(標高880～2250m)の60地点を歩いて調査し、ニホンジカのふんの塊の場所を記録した。ニホンジカの捕獲状況も確認し、富士山中腹で人がニホンジカを捕獲することで、シカが標高の高い地域に移動していることが分かった。

研究によると、標高が高い地域に生息しているカモシカは植物を一部残す食べ方だが、シカは植物を食へ尽くす。標高の高い地域は希少な動物が多く生息していて、植物や生態系への影響が懸念されている。

狩猟では撃ち手がいる場所

にシカを追い込む「巻き狩り」が主流だが、撃ち取れるのは10～30%とされる。生き残ったシカは危険な地域として学習し、標高が高い地域に移動する要因になっている可能性があるという。

同課担当者は「シカが高山植物を食べていることが分かっている。標高が高いエリアに行く前の段階で絞り込んで捕獲する。シカの移動を防ぐことで、貴重な動植物など生態系の保全につなげたい」と話している。

〈雨宮文貴〉

(2026年4月7日付 山梨日日新聞1面)

問1 山梨県が富士山5合目での、ニホンジカの管理捕獲を強化する目的を教えてください。

..... するため

問2 管理捕獲は、いつ行われますか。

.....

問3 ニホンジカが、富士山の標高の高い地域に移動するようになった要因を教えてください。

.....

問4 標高が高い地域に生息しているカモシカではなく、ニホンジカを対象とした理由を教えてください。

.....